

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女性, 25歳代)あり, 年間累積報告数は15例になっています。
- ・ 風しんの報告が1例(男性, 0歳代)あります。推定感染経路は接触感染で, ワクチン接種歴はありません。平成20年に全数把握疾患に変更されてから, 年間累積報告数は, 0～1例で推移していましたが, 本年はすでに20例と非常に多くなっています。性別は, 女性7例, 男性13例, 年齢群別では, 40歳代, 20歳代が各6例と最も多く, 次いで30歳代が3例となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.49(20例)で, 前週(0.41)よりも増加しています。本年第19週以降, 過去5年平均値を上回る状態で推移しています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.12(128例)で, 前週(2.20)よりも増加しています。
- ・ 基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告が前週に引き続き2例あります。全国でも過去の同時期と比べて多い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.34(14例)で, 前週(0.24)よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 6例(肺結核 3例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 305例(肺結核 121例, その他結核 68例, 潜在性結核感染者 116例)うち喀痰塗抹陽性 60例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 20例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.12	128
	② ヘルパンギーナ	0.71	29
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	20
	④ RSウイルス感染症	0.34	14
	④ 突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

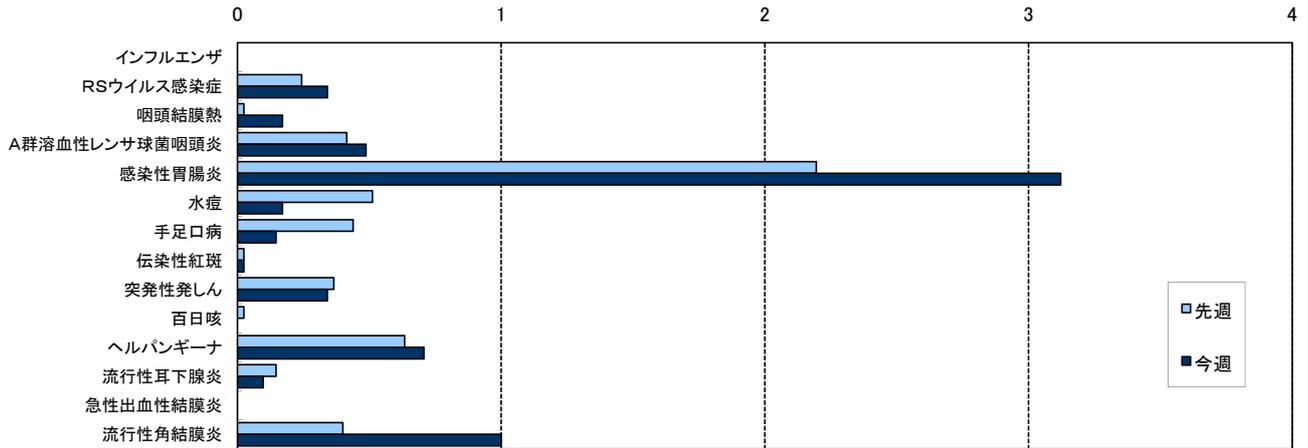
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

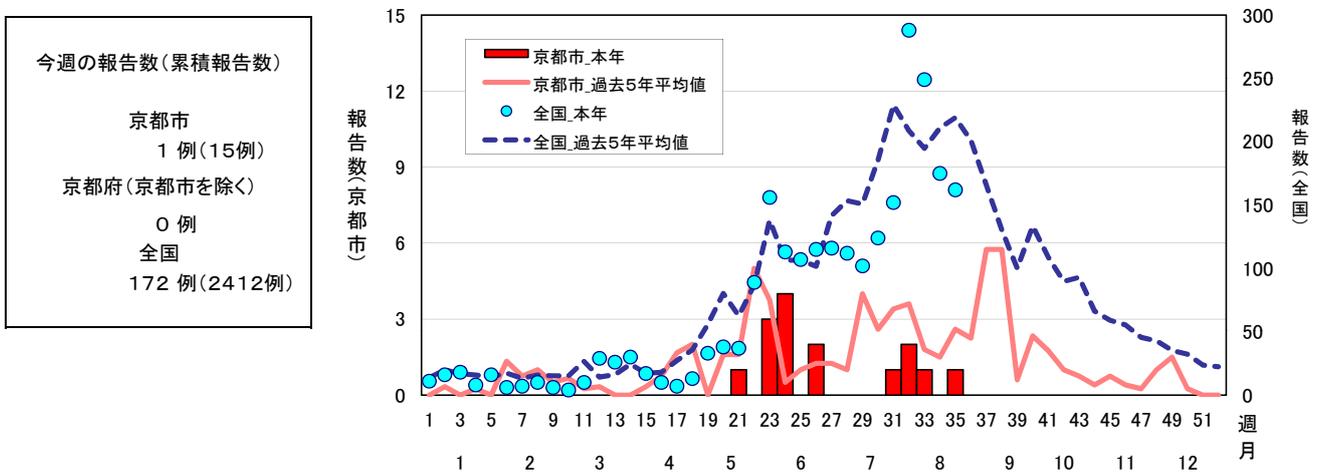
(注) 京都市のデータは, 平成24年9月6日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第35週)と先週(第34週)の定点当たり報告数の比較

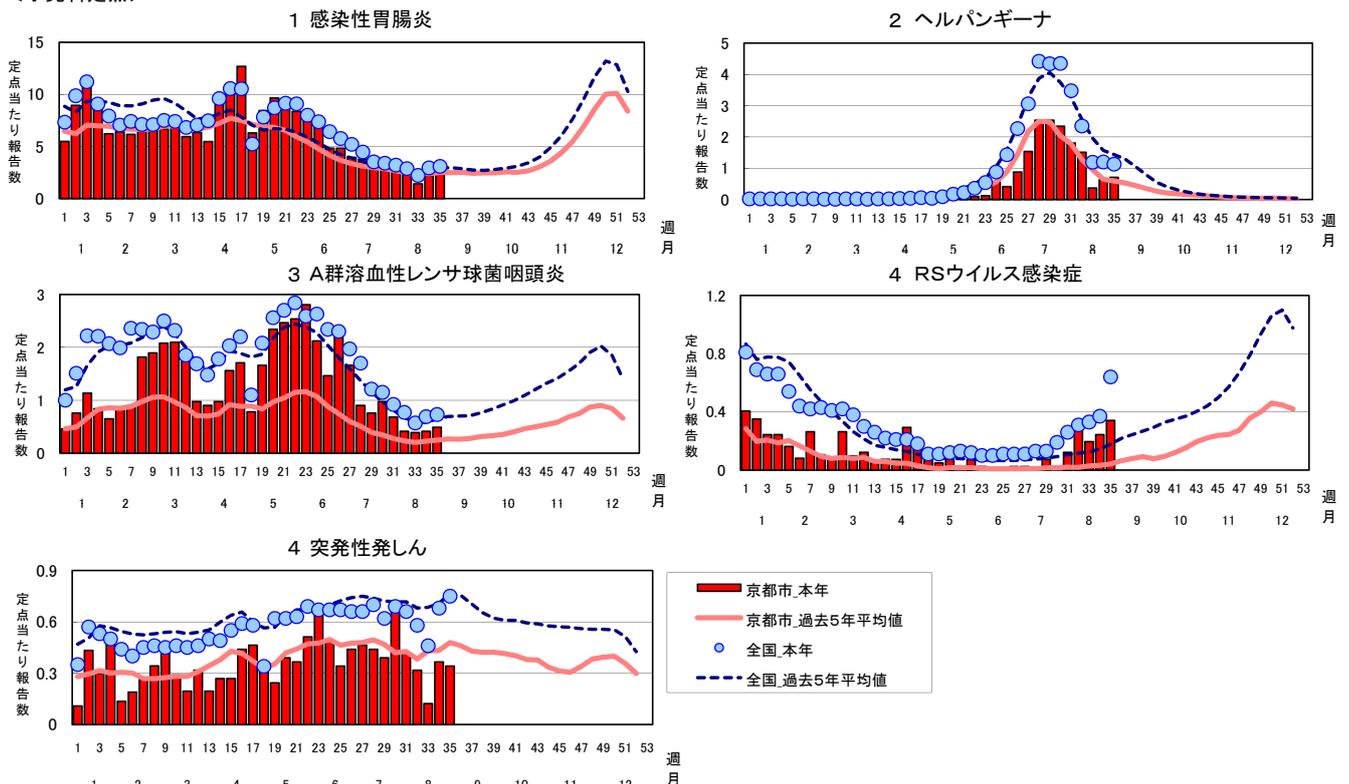


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



第35週(8月27日～9月2日)トピックス: <RSウイルス感染症>

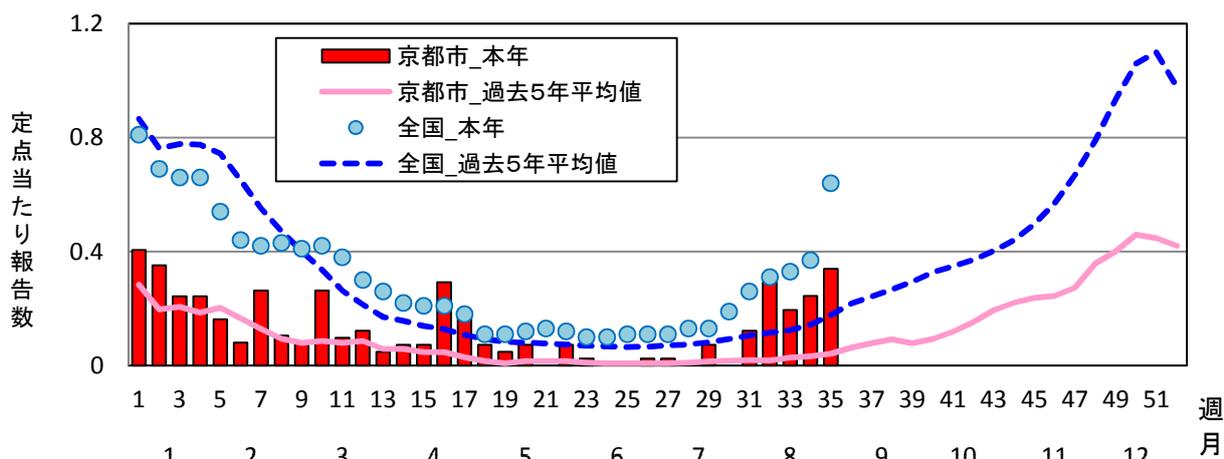
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.34(14例)で、前週(0.24)よりも増加しています。例年は秋から冬にかけて流行し、8月にはほとんど報告がありませんでした。本年は第31週(7月30日～8月5日)以降連続して報告があり、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。今後の動向にご注意ください。

近畿6府県でも4府県で定点当たり報告数が前週より増加し、全国も前週の約1.7倍に増加しています。

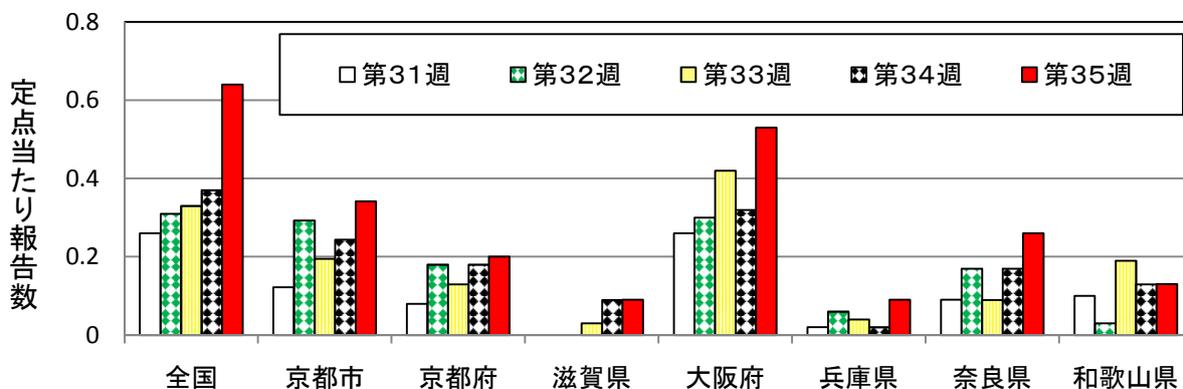
年齢階級別では、1歳が8例(57.1%)と最も多く、次いで6箇月～11箇月 3例(21.4%)となっており、0～1歳で85.7%を占めています。

京都市衛生環境研究所において病原体定点からの検体を検査した結果、RSウイルスは、8月に3件分離されています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

